

## 県外派遣報告書

審判員名	坂本 秀樹	所属	高体連		
大会名	平成25年度 関東高等学校男子バスケットボール大会				
期間	平成25年6月1日(土)・2日(日)				
会場	千葉県船橋市総合体育館				
スケジュール					
期 日	内 容	場 所			
5月31日(金)	審判会議	船橋市総合体育館			
6月1日(土)	関東大会1・2回戦	船橋市総合体育館			
6月2日(日)	関東大会準決勝・決勝	船橋市総合体育館			
会議 講義 内容					
<p>審判会議では指名の小澤勤氏からのレクチャー。年度初めの上級大会、審判員としてもどういう気持ちで年度初めを迎えているか心持ちの確認。信頼されるレフリーとはどういうことか。①公正・公平であること②判定の一貫性が挙げられた。その他私自身が考えたことは、審判が目立たないでゲームがスムーズに終わっていくことである。そのために①ルール正しい理解と的確な適用②レフェリーマニュアルの理解と運用が挙げられた。机上のものとして「知っている・分かっている」のではなく、自分が本当に行動・対応しているのか再確認をする。また、審判の主要な任務とは「1つ1つのプレイを自分の目で確かめること」であり、それを体現するために「4原則」がある。審判はできる時とできない時があってはならない。自らが努力を継続すること。そして2人の協力が不可欠であること。プレゲームカンファレンスの重要性が話に挙げられた。</p> <p>大会2日目の会議は指名の清水幹治氏からご講義をいただいた。マニュアルに書いてある文章を、ただそのまま読むのではなく、なぜそういう文章表記になっているのかを考えることで、日々の実践がより意味のあることになってくるのでは、という始まりであった。①トレイルの追従の場面②オールコートにおけるトレイルとリードの協力について③トレイルからのペネトレイトの場面④リードで待ち構えるということ⑤間接視野と直接視野について、など具体的なシチュエーションを映像により分かりやすく説明・解説していただいた。</p>					
実技					
担当試合	期 日	6月1日(土)	男子 女子	男子	
	対戦カード	作新学院(栃木)	VS	市立松戸(千葉)	主審 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">副審</span>
	相手審判	濱 雄介(東京)			
ミーティング内容		主任		安藤俊明(千葉)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1Pの入り方や2Pについてはダメなものはダメという姿勢が示せていた。</li> <li>・3P、自分のエリアと相手のエリアについての分担がギクシャクするケースが出てきて、崩れていく印象。→ゲーム中に修正しきる力も実力である。</li> <li>・ブロックショットの見極め → よりスペースを見られる位置取りからの確認を。</li> <li>・レイアップショットに対するアンスポーツマンライクファウル → ルールに則り、より正しい判定を。</li> </ul>					
全体の感想					
<p>私がここ1年間取り組んでいる課題は「無理をしない・無理に笛を吹かない」「リードでプレーを受けるための予測と位置取り」「自分のエリアを死守し、相手審判との協力をを行う」ということです。県外で1ゲーム吹かせていただき感じたこと、印象にのこったことは、課題の克服が未だされていないことであり、できないことだらけの再確認の場となったことです。10分、20分できても40分やりきらなければ信頼される審判ではないということは、前日の講義でもいただいた内容と重なりました。そのためにはやはり日頃から、上記の課題が「無意識化」されてないといけないのだと感じました。頭や机上だけの理解ではなく、体までもが習慣化するまで継続していこうと強く思いました。</p> <p>文末になりますが、今回、高体連として初の関東派遣をいただきました。日頃お世話になっている各連盟・埼玉県の方々に感謝申し上げます。また細かい点まで、千葉県の方々にも大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>					